

杜甫「春望（漢詩の風景）」
テスト対策練習問題と過去問まとめ

年	組	番	名前
---	---	---	----

春望

渾^ア 白 家 烽 恨 感 城 国
 欲^{ベテ} 頭 書 火 別^レ 時^{ジテハ} 春^{ニシテ} 破^{レテ}
 不^レ 搔^{ケバ} 抵^ニ 連^{ニナリ} 烏^{ニモ} 花^{ニモ} 草 山
 勝^レ 更^ニ 万 三 驚^{カス} 濺^{レキ} 木 河
 簪^ニ 短^ク 金^ニ 月^ニ 心^ヲ 涙^ヲ 深^シ 在^リ

問1 この漢詩の作者の名前を漢字で書きなさい。

問2 この漢詩の形式を、漢字4字で答えなさい。

問3 この漢詩の「国」「城」とは何をさしているか。漢字2字で答えなさい。



問4 「草木」の読みを現代仮名遣いで答えなさい。

問5 「濺ぎ」の読みを答えなさい。

問6 「烽火」の読みを現代仮名遣いで答えなさい。

問7 「万金」の読みを答えなさい。

問8 「抵る」の読みを答えなさい。

問9 「渾べて」の読みを答えなさい。

問10 「簪」の読みを答えなさい。

問11 「城春にして草木深し」とあるが、どういう意味か、次の中からもっとも適切なものを選び○で囲みなさい。

ア：城壁で囲まれた町の中にも春がやってきて、草や木も生い茂っている。

イ：城壁で囲まれた町の中にも春がやってきたが、戦争によって草や木は枯れたままだ。

ウ：城壁で囲まれた町にも春がやってくれば、また草木も生い茂るだろう。

エ：春になり、城壁で囲まれた町は草や木で覆い尽くされてしまった。



問12 「時に感じては花にも涙を濺ぎ」とあるが、「涙を濺ぐ」とはどういう意味か、次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：涙を流す
- イ：涙をぬぐう
- ウ：涙をこらえる
- エ：涙が枯れる

問13 「別れを恨んでは鳥にも心を驚かす」とあるが、「別れ」とは、作者の杜甫と「誰」の別れのことか。漢字2字で答えなさい。

問15 「別れを恨んでは鳥にも心を驚かす」とあるが、「鳥にも心を驚かす」とはどういう意味か。もっとも適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：家族が無事かどうか心配のあまり、鳥の鳴き声さえ腹立たしく思う。
- イ：家族が無事かどうか心配のあまり、ただ鳥が鳴いただけでもひどく驚いてしまう。
- ウ：家族と離ればなれになっていることが悲しく、鳥の鳴き声を聞くだけでも不安になる。
- エ：家族と離ればなれになっていることが悲しく、罪のない鳥にも八つ当たりをしてしまう。

問16 「家書万金に抵る」とあるが、その理由としてもっとも適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：戦地でひとり耐える自分にとって、家族から送られてくるお金は命を左右するものだから。
- イ：戦いによって会えない家族の無事を知らせてくれるものだから。
- ウ：一族のことを記録した書は、戦いの後の世に残すべきものだから。
- エ：戦争の影響で、家族から手紙を送るだけでも沢山のお金がかかってしまうから。



問17 線アの書き下し文を書きなさい。

問18 線アの意味を次の中から選び、○で囲みなさい。

- ア：どんな冠にも敵わない
- イ：すべての冠を欲しいと願う
- ウ：冠を与えられるために努力する
- エ：冠を全くとめることができない

問19 「春望」には対句となっている句があるが、それぞれ何句と何句が対句になっているか、3組答えなさい。

問20 「春望」では、4つの句の末尾が韻を踏んでいる。韻を踏んでいる漢字を全て答えなさい。

問21 韻を踏む技法をなんというか答えなさい。

問22 当時が戦乱の世であったことがわかる語句を詩の中から2字で抜き出して答えなさい。



問23 「春望」には、作者のどのような思いがこめられているか。もっとも適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：争っている人の世とは関係なしに美しい自然への嫉妬
- イ：苦境におかれたまま年老いていくしかない悲しみ
- ウ：戦争という苦境の中でも変わらぬ一族の誇り
- エ：自然の大きな力に抗うことのできない人の世のはかなさ



杜甫「春望（漢詩の風景）」 テスト対策練習問題と過去問まとめ（解答）

問1 杜甫

【解説】杜甫（とほ）は中国の唐の時代を代表する詩人。

問2 五言律詩

【解説】一句が5文字（五言）で、全部で8句で作られた漢詩（律詩）のため「五言律詩」となる。

問3 長安

【解説】中国の唐の時代の都である「長安」のことをさしている。

問4 そうもく

問5 そそ（ぎ）

問6 ほうか

問7 ばんきん

問8 あた（る）

問9 す（べて）

問10 しん



問 | 1 ア

【解説】「城」とは、城壁で囲まれた都市のことで、春望では「長安」のことをさす。

問 | 2 ウ

問 | 3 ア

問 | 4 家族

【解説】「家書万金に抵る」とあるように、家族からの手紙は万金に値すると杜甫は考えており、戦争によって家族と離れ離れになってしまっていることを恨んでいるということが分かる。

問 | 5 ウ

【解説】「心を驚かす」とは、「不安になる」という意味。

問 | 6 イ

【解説】「家書」とは、家族からの便りのこと。「万金に抵る」とは、とても貴重だ、という意味。

問 | 7 渾べて簪に勝へざらんと欲す

【解説】「渾」を読んだあと、ずっとレ点が続くので、一番下から順に上へ上がるように読むことになる。

問 | 8 エ

【解説】「簪（かんざし）」とは、冠を留めるためのピンのようなもの。第七句にあるように、白髪頭を搔きむしることで髪が少なくなってしまう、冠を留めるための簪がさせないほどになってしまったということを表現している。



問 1 9 第一句と第二句、第三句と第四句、第五句と第六句

問 2 0 深・心・金・簪

問 2 1 押韻

問 2 2 烽火

【解説】烽火とは、戦いののろしのこと。

問 2 3 イ

【解説】烽火とは、戦いののろしのこと。

